

## E判定からの逆転劇： 7ヶ月で合格ラインへ駆け上がった「死に物狂い」の戦略と情報一元化術

今回は、学習期間わずか7ヶ月で短答式試験のE判定からボーダーラインを突破し、見事に論文式試験合格を果たした塩屋友梨さんにお話を伺いました。彼女の勝因は、徹底した「情報の取捨選択」と、試験直前まで見直せる「オリジナルのミスノート」の作成、そして「死に物狂い」で挑んだ短期集中学習にありました。塩屋さんが実際に実践していた学習方法、スケジュールリング、そしてメンタル管理について、インタビュー形式で余すところなくお届けします。さらに記事の後半では、塩屋さんが実際に作成・使用していた「論点まとめ」や「ミスノート」も公開します。これから試験に挑む皆さんにとって、指針となるヒントが必ず見つかるはずです！

### 合格者紹介

#### 塩屋友梨さん



- ・ 経歴：  
医療系前職あり。一念発起して公認会計士試験に挑戦。わずか1年4ヶ月の勉強で合格。
- ・ 学習スタイル：  
Googleドキュメントなど活用し、ミスを一元化。パソコンで勉強計画の管理も行い、デジタルをフル活用していた。
- ・ モチベーション：  
背水の陣の意識で、苦しい時もとにかく勉強を重ねた。

### インタビュー

#### ミスの分析と「自分だけのまとめファイル」への一元化

——早速、学習内容についてお伺いします。合格者アンケートにて、答練を受けっぱなしにするのではなく、ミス进行分析してテキストへの一元化を行ったことを勝因に挙げられていました。具体的にどのようなプロセスで一元化を行っていたのでしょうか？

塩屋：

ミスしたポイントをテキストに青字で書き込んで区別することはしていました。しかし、実は、テキストに直接一元化するというよりは、論文対策用にテキストとは別の形でファイルを作成していました。財務会計論などはテキストだけで10冊ほどになりますので、試験直前などの限られた時間にコンパクトに見直せるよう、**テキストから必要な情報を抜き出してまとめた別のファイル**を作成していました。

——テキストだと情報が分散してしまうからですか。

塩屋：

そうです。**情報がページごとに散らばっている部分を、自分なりに抜き出してまとめた方が、試験対策として有用だと感じていました。**

——これは論文式試験対策として始められたのでしょうか？ それとも短答式試験の頃から同様のものを作っていたのですか？

塩屋：

**短答対策の時から作成しました。**短答用に作っていたものを、論文対策用に合わせて変更していった形です。元々あった短答用のファイルに、論文対策の情報を継ぎ足して完成させていきました。

——どのタイミングでこのファイルの内容を確認していたのでしょうか？ 試験直前ですか？

塩屋：

毎日ずっと開いていました。毎日継ぎ足して書いていたので、**勉強中は常にパソコンでファイルを開いており、何度も目にする**ことで自然に覚えるという

感覚でした。また、進捗管理もパソコンで行っていたので、常に目に入る環境でした。

## 7ヶ月という短期間での「死に物狂い」の学習

- 全体的な注意事項**
- まずシールを貼る。シール貼ったら受かります。回答用紙の枚数確認して使う枚数把握しておく
  - 簡単な問題ほど丁寧に解く、取りこぼさない意識を。これで受かる。
  - 第五問は、急がば回れ精神で全体を俯瞰する。取りに行ける問題から取りに行く。もしバニックになったら、とりあえず理論論書きに行って、残った時間充てる！
  - 期中取引、期間按分は丁寧に！！！！X1年度末でも12月決算は要注意！！**
  - 仕訳切る時の貸借に注意、無心で書くとか大体逆になっている
  - 前T/Bや修正仕訳以外のB/S等の合算漏れに要注意
  - 下書きは大きく！端折らず丁寧に書く！！！！
  - 単位要注意！！！！！！！！解答欄チェック ▲▲▲▲▲
  - 簡単な問題は年度ミスしてないか確認
  - 仕訳切る→加算したら下線ひく（集計漏れ防止のため）**
  - 不要なデータは電卓叩く前に先に頭で整理、でっかく✕をつけておく
  - 持分が変動している場合には期中の持分額を線分上必ず書く
  - 誤転記には要注意

### ↑全般的な注意事項

- 【包括利益】そ評・為調・連結退給等出てきたら一旦立ち止まる
- 親会社持分の包括利益にP自体のそ評変動額を入れ忘れない→この手のミス多すぎる
  - 包括利益=P（忘れない）+S+持分法会社の持分
  - 包括利益は最後に親会社帰属分、を計算するので子会社の持分%はかけずに当期純利益出す（持分法は持分のみ）（この手のミス多すぎる）
  - そ評の±勝手にプラスと勘違いしないこと（論上3）
  - 為調の非支配株主への按分はすれしない
  - P/L当期の包括利益は持分関係なくP+S+持分法適用会社に対する持分相当額
  - 当期のOCIの金額=前期のB/Sと当期のB/Sの差額、組み替え調整は聞かれていなければ無視でOK
  - 持分法適用会社がある場合は持分法のそ評は持分のみ、税効果してから「持分法適用会社に対する持分相当額」の欄に書く（その他の包括利益の中には入る、内訳が違ふのみ、そ評の欄は✕）
  - その他の包括利益は純資産の変動のうち持分所有者との直接的な取引によらない部分なので、一部売却追加取得しても内訳の%は変えないことに注意
  - PとSがS/Sの形式で与えられて、包括利益を問われている時、連結修正でのれん債却あれば利益変わるので子会社の利益系は一旦T/Tで整理する
  - 組替調整額はその他の包括利益の注記なのでゴールはもろろんOCI
  - 持分法評価額=T/T持分比率+評価差額+のれん未償却額（一部売却後の取り崩し忘れはない）**

### ↑財務会計論計算包括利益のミスノート

——常に更新されていたのですね。

塩屋：

はい。ファイルには全般的な注意事項を書く欄も設けていました。例えば「バーコードシールを貼り忘れない」といった基本的なことから、試験の5分前まで見るような内容まで書いていました。本試験の直前は、「基本的なことで失点したくない」という思いが強かったので、自分が今までどのようなミスをしてきたかを潜在意識に刷り込むために、その注意事項の欄をずっと見ていました。

——パソコンで管理することで、毎日更新・ブラッシュアップされていたわけですね。この方法で成績も徐々に上がっていったのでしょうか？

塩屋：

短答式試験に関しては、私は学習期間が7ヶ月ほどしかなく、最初はE判定からのスタートでした。直前までE判定でしたが、**本番ではB判定まで上がり**、なんとか合格できました。初学者だったので、ずっと成績が良かったわけではなく、**最後に伸びた形**です。論文式試験に関しても、同じような推移でした。

——7ヶ月でE判定から合格ラインまで持っていくというのは、非常に短い期間での劇的な伸びだと思います。その7ヶ月間、どのような勉強をされていたのでしょうか？

塩屋：

「受かること」しか考えていませんでした。ひたすら勉強していました。

——短期間の中でも、よく引かかる論点などを一覧でまとめる作業はされていたのですか？

塩屋：

作成していました。植田講師のYouTubeを見て、「**論点まとめを自分で書けるようになれば分かっている証拠だ**」という話を聞き、やってみようと思いました。最初は紙でまとめようとしたのですが、さすがに時間がかかりすぎてしまいましたので、パソコンでの管理に切り替えました。

——他にはどのような情報を参考にされましたか？

塩屋：

CPA会計学院が配信しているjijiたん(平木講師)の勉強法講座や、河野玄斗さんの会計士受験時代のYouTube動画などを見ました。あとは、オープン面談に頻繁に参加していました。大まかな方向性がずれたまま勉強すると、取り返しのつかないことになると感じていましたので、**自分がずれていないかを確認するためにオープン面談に参加し、良さそうな勉強法があればとりあえず試し、合わなければやめる、ということを繰り返して**いました。

——オープン面談で特に印象に残っているものはありますか？

塩屋：

短答式試験直後に行われた、今後の指針に関するオープン面談ですね。短答期はテキスト、例題、計算問題、短答問題集とやるのが明確で、科目も4科目しかありません。しかし、論文期になると科目が増えますし、**計算力は短答期がピークで、論文期はそれを「維持」する方向**になります。目指すものが変わってくるため、指針が分かりにくく、特に最初の頃は迷いました。

——論文対策の初期は戸惑う方が多いですね。

塩屋：

定期的に面談していた講師からは「**まずは5月の論**

「文模試1回目を目標にやれ」と口酸っぱく言われていました。しかし、短答が終わってから半年ほどある中で、論文模試で良い成績を取るために今から何をすべきなのか、その具体策が漠然としていて分かりませんでした。合格者レベルの暗記がどの程度なのかも肌感覚で分からなかったため、そういった指針を示してくれるオープン面談は有益だと思えます。

## 効率化のためのツール活用

### ：ポケット論点集と

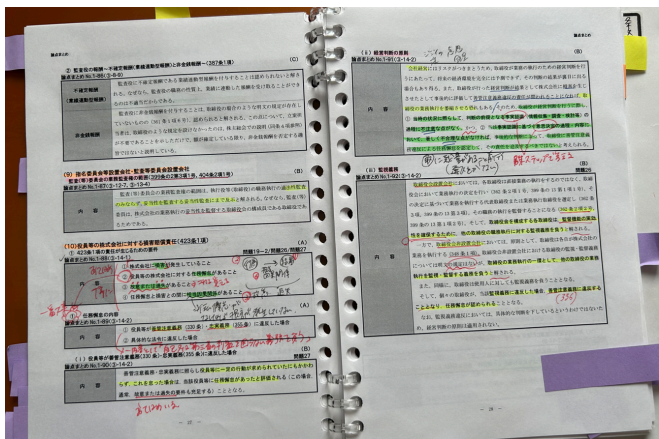
### Googleドキュメント

——独自の勉強スタイルとして、パソコンでのまとめファイル以外に工夫していたことはありますか？

塩屋：

コンパクトなサイズのファイルを使って、まとめていました。過去の合格者の方が作成されたnote（※投稿された文章や画像、音声、動画を楽しんで応援できるメディアプラットフォーム）から知ったやり方です。

論対集はサイズが大きく、電車の中などで見にくかったんです。電車でも勉強していたので、見やすいようにポケットサイズに情報を集約したいと思っていました。



↑企業法論文対策集をA5サイズに縮小コピーしてコンパクトなファイルに綴じたもの

——持ち運びやすさを重視されたのですか。

塩屋：

その合格者の方のnoteを参考に、自分で講義を受けて気づいたことを全てポケットサイズのノートにメモしていました。そのため、B5サイズの大きなテキストは使いませんでした。企業法の論点まとめなども同様に小さくコピーして持ち歩き、隙間時間に見ていました。薄くて小さいので、これはやって良かったと思っています。

——ご提供いただいた資料の中には、Googleドキュメントのスクリーンショットがありましたが、チェックボックスや色分けを活用されていましたね。

塩屋：

黄色のマーカーは、何度も間違えて量が多くなってきた箇所に引いていました。チェックボックスは「もう見なくていいかな」という項目を消すために使っていましたが、完全に削除してしまうと後で戻すのが面倒なので、チェックを入れて管理していました。Wordも考えましたが、タスクの管理や削除・復元のしやすさはGoogleドキュメントの方が個人的にやりやすいと感じていました。



↑ランク付け

——ランク付け（神論点、A論点、B論点、C論点）もされていますね。回転する頻度は重要度によって変えていましたか？

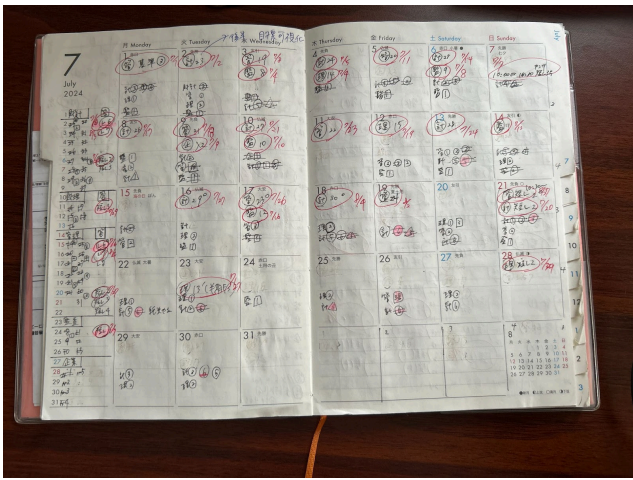
塩屋：

変えていました。頻繁に見ていたのはA論点でした。神論点などのランク付けについては、財務会計論の植田講師などが配信で仰っていたことをそのまま取り入れて書いていました。

## スケジュール管理と

### 「理解重視」のバランス

——学習計画についてお伺いします。ご提供いただいたスケジュール表を見ると、1ヶ月ごとの日程と講義、答練の予定が書き込まれていますね。



↑塩屋さんのスケジュール帳

塩屋：

毎月1回、月初に必ず計画を立てるようにしていました。もちろん1ヶ月の計画を立てても大体ずれます。しかし、それを踏まえて、講師とも相談しながら計画を立てていました。月ごとの進捗を目安に、週の予定を立て、「大体1週間でごこまではやろう」というざっくりとした感じで進めていました。

——実際に受講した日付を見ると、予定より遅れているものもあれば、オンタイムに近い日程で答練を受けられているものもありますね。

塩屋：

超速習コースだったので、すべてのライブ答練には間に合わない日程でした。講義を進めて復習してから答練を受けるというスタンスでした。答練はすべて受けましたが、「理解せずに進めるのは悪だ」という言葉を信じて、理解していないのに先に進めることはしませんでした。その結果、予定から遅れることは多々ありました。

——CPAでは「理解重視」を強調していますが、大量の講義を消化しなければならない中で、理解と暗記のバランスはどう考えていましたか？

塩屋：

「理解が大事」と言われますが、1回講義を受けただけでは分からないことも当然あります。そういう場合、3回くらい回すと「意外とこういうことか」と分かったりします。ただ、「これを放置したらまずいな」という感覚と、「演習でカバーできそうだな」という感覚が自分の中にありました。放置したらまずいと感じたものは、答練を受けた後にもう一度講義を見直したり、CPAバーチャル校で質問したり、講師相談をしたりして、必ず解消するようしていました。

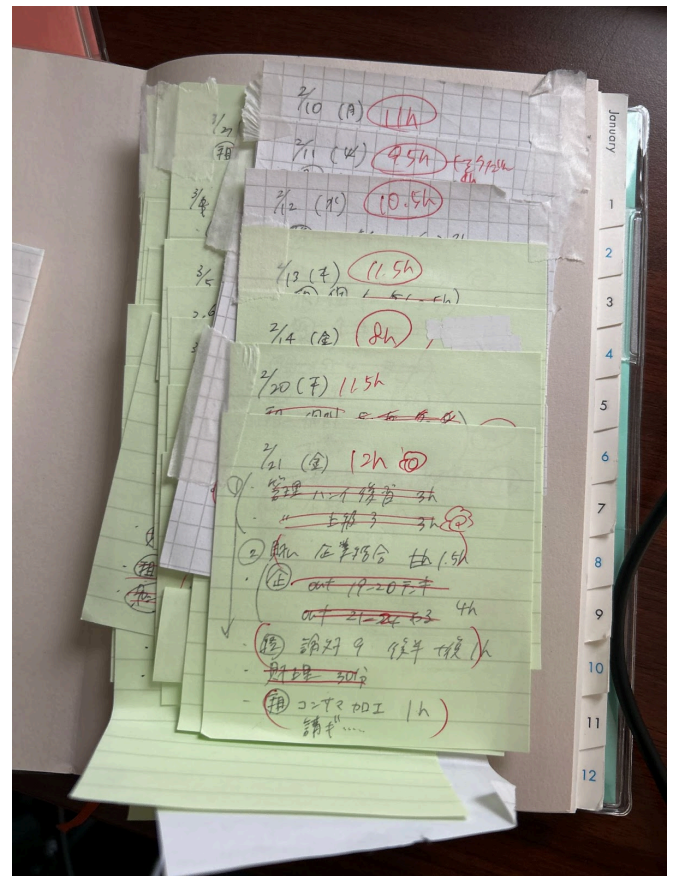
——「放置したらまずい」の判断基準を教えてください。

塩屋：

まずは重要性が大事です。C論点の細かい部分に分からなくても、余裕があればやる程度で放置することもありました。ただ、反省点として、構造論点の連結の細かい部分や企業結合を暗記寄りに進めてしまったため、論文期になってから苦しみました。すぐ忘れてしまうので、理解していないといけない部分は丁寧にやるべきでした。「自分の言葉で説明できなかつたら分かっていない」と判断し、将来的に説明できなさそうだなと思ったら、時間をかけてでも丁寧に取り組むようにしていました。

## モチベーション管理と

### 「努力の勲章」



↑タスクを書いていた付箋

——日々のタスク管理についてもユニークな方法を実践されていたそうですね。

塩屋：

やることを毎日付箋に書き出し、終わったら線で消していました。線で消すと「やった感」が出るのが好きでした。また、その付箋を部屋の壁に大量に貼っていました。「これだけ頑張ったんだぞ」という努力の勲章のようなもので、捨てられずに壁一面に貼っていました(笑)。

## まとめ・メッセージ

——それは視覚的にも自信になりそうですね。そもそも、なぜそこまで追い込んで勉強できたのでしょうか？

**塩屋：**

退職して背水の陣だったので、経済的な事情もあり、令和7年の論文式試験にどうしても受かる必要がありました。学習開始が2024年の4月頃で、そこから計算すると1年4ヶ月しかありません。通常は12月短答・8月論文が王道なので、12月短答の合格を目指しました。**途中、5月短答目標に変更したいと相談に行きましたが、「今頑張れないなら次も絶対頑張れない」と言われ、死に物狂いで勉強しました。**

——具体的にはどのくらい勉強されていたのですか？

**塩屋：**

短答直前の8月や9月は、**月350時間**くらいやっていました。勉強に専念できる環境があったからこそですが、そのくらいやらないと受からない試験だと思いました。

### 受験生へのメッセージ

——最後に、現在学習中の受験生に向けてメッセージをお願いします。

**塩屋：**

講義や答練の解説、オープン面談などで、多くの講師が「続けていけば道は開ける」「絶対合格できます」と励ましてくださいませ。でも、受験生としては「そんなこと言われても本当に合格できるの？」と思うくらい、辛いこともあるかと思います。**私も苦しかったこともありましたが、無事に合格することができて、「頑張れば実を結ぶんだ」と実感し、本当に頑張っただけよかったと思います。**今、辛いと思っている方も、きっと頑張ったらいいいことがあると思うので、休息も大事にしつつ、勉強していただけたらと思います。

——本日は貴重なお話をありがとうございました。

塩屋さんの合格体験記、いかがでしたでしょうか。彼女の勝因をまとめると、以下のポイントが挙げられます。

#### ・徹底した情報の一元化

膨大なテキストを持ち歩くのではなく、必要な情報を抽出した「自分だけのファイル」を作成し、毎日更新して潜在意識に刷り込んだ

#### ・目的意識のある学習

オープン面談などを活用して「学習の指針」を常に修正し、合格レベルの感覚を取り入れた

#### ・理解への執着

スケジュールが遅れても「理解しないまま進むのは悪」と捉え、講義の見直しや質問制度を徹底活用

#### ・「やった感」の可視化

付箋を使ったタスク管理で、日々の努力を視覚化しモチベーションを維持

自身の弱点と向き合い、情報を整理し、「死に物狂い」で取り組んだ結果が短期合格です。今、成績が伸び悩んでいる方や、学習量に圧倒されている方も、塩屋さんのように「強い意志」を持って、合格への道を切り拓いてください。応援しています！

## 【特別公開】

### 合格者の「ミスノート」

以下では、塩屋さんが実際にグーグルドキュメントで作成していた「ミスノート」の内容の一部を公開します。

合格者が具体的に「何を」「どのように」注意していたのか、その思考の解像度の高さに注目してください。

(なお、個々の論点が正しいかどうかは最終確認していません。合格者はどういう方法で自分のミスと言語化していたのかについての参考にしてください！)

#### 1. 絶対一位とる攻略

##### 1. 監査論

- 勉強法がわからなくなったらinput編の攻略法に戻る
- 事例対策過去問演習は本当に余力ある人のみでOK
- 論対集だけでは対応できないので適宜テキストに戻る
- 上級答練も教材なのでそこは点数を気にせず受ける→解説、復習で書き方を学ぶ
- アウトプット編は回転不要

##### 2. 租税法

- とにかく量、触らない時期を作らない 直前期でも最低毎日1時間はやる
- 回転問題はテキスト→まわせるようになったら個別問題集・答練
- (手を出せそうだったら消費税のコントレ検討)

##### 3. 会計学 (管理)

- 構造的な理解 (講義を無駄にしない)
- もし重要論点で腑に落ちていないところがあれば耳勉行き
- 定期的にガイダンス資料読んで方向性を確認
- 2週目の周回終わったら下書きある程度綺麗に書いたものファリングする、回転教材無いことの辛さ知ってるだろ

##### 4. 会計学 (財務)

###### 【計算】

- 3月までは毎日触る
- 第3問は易しい問題を落とさない、第5問は稼ぎどころで跳ねさせる
- 回転教材はコントレで知識の抜け漏れ防止、第5問対策はコントレ総合問題編の解き散らかしで対応
- 構造論点、連結CF優先でコントレ回す

###### 【理論】

- 典型論証の吐き出しと優しめの思考問題ができればOK
- 攻めではなく守りの理論を、難しくても周りもできないので手を広げない
- 論ダイ受講して、論対加工 (適宜テキストに戻って構造論点の理論背景わからなければコントレ耳勉行き)

##### 5. 企業法

- まずは最初のガイダンス聞きましょう

##### 6. 経営学

- 必要最低限で合格点を取る
- 講義はテキスト (辞書がわり) → 速習レジュメ回転 (演習もう少し欲しければ個別問題集、多分いらぬ)
- 標準日程表に従う、とにかく重要性重視

#### 2. 「最強無敵ミスノート」

##### 全体的な注意事項

- まずシールを貼る。シール貼ったら受かります。回答用紙の枚数確認して使う枚数把握しておく
- 簡単な問題ほど丁寧に解く、取りこぼさない意識を。これで受かる。
- 第5問は、急がば回れ精神で全体を俯瞰する。取りに行ける問題から取りに行く。もしパニックになったら、とりあえず理論を書きに行って、残った時間を充てる！
- 期中取引、期間按分は丁寧に！！！！X1年度末でも12月決算は要注意！
- 仕訳切る時の貸借に注意、無心で書くと大体逆になっている

- 前T/Bや修正仕訳以外のB/S等の合算漏れに要注意
- 下書きは大きく！端折らず丁寧に書く！！！！
- 単位要注意！！！！！！！！解答欄チェック  
▲▲▲▲▲
- 簡単すぎる問題は年度ミスしていないか確認
- 仕訳切る→加算したら下線ひく（集計漏れ防止のため）
- 不要なデータは電卓叩く前に先に頭で整理、でっかく✕をつけておく
- 持分が変動している場合には期中の持分額を線分上に必ず書く
- 誤転記には要注意

るのでのれん償却費注意（配分が決まらなかった時と混同しない）

### 3. 「企業法の極意」

1 問題を解け  
論対集をとく、良問。解が無いと解けない、答案構成はやる  
ルーズリーフにざっと下書きを書く、解答例どおり大体かけるようになればOK、自分で点数振って完璧答案構成していた、とにかく問題を解く

2 短答と論文は違う科目だと思おう  
短答苦手だけど論文得意な人もめっちゃいる

3 論点主義者になるな（最後の8月の本試験まで最低限覚えるけど）  
論点まとめ丸暗記はNG、論点書くのは多くて2～3問

一言一句論点まとめ覚えるのは足切りリスク高まる  
どの条文、どの要件の論点でこういった事情がある時に論じる必要があるのかを意識する  
論点覚えるのは全体の3～4割くらいの労力で、他は書き方と条文の勉強

4 条文マッちょになれ！  
条文力を鍛える、論点は質的下限レベル  
問題の事実を「条文を使って解決できるのか？」という試験  
条文力＝どこにどういう条文があるのか、その条文の要件・効果はなんなのか、論点はあるのか知っているのかどうか 大体300条くらいと当たりをつけられる能力、わからなければ目次からも引けるように  
要件を抽出できる能力、さしどめできる？無効？  
普段の勉強で条文を使う、知らなくても見つけてやるわくらいの力をつけたら最強

5 型を学べ！  
最初は誰もわからない  
あくまでも試験委員が求める「回答筋」があり、それに答える試験  
展開の典型例はIRACで、まずはIRACを抑える書き方わからないものは、論対集や答練の解答例を真似して書き方を学ぶ  
Rの部分の四角で囲むと読みやすくなるかも？  
回答例の分析を行う

### 連結会計の一般的な注意事項

- 評価差額はマイナスの場合もあるので、プラスだと思いこんで計算しない
- 多社連結の場合は、T/T描き始める前にデータを整理しておく、合算する範囲はメモる
- 1社ずつT/T書いたら、漏れている取引ないか確認する
- 包括利益の注記がある場合に取りに行く場合には、欄外に税効果前で四つに分けて下書きしておく
- T/Tの上の年度の整理は端折らない、年末なのか年始なのか端折らず分けて書く（ふつとぶぞ）、これでのれん償却ミスって10点失点とかいたすぎる
- 過年度取得してT/Tまとめて書く時は、経過年数メモる（✕5年）
- のれん償却額→持分法投資利益、売上の相殺はしない、など持分法と連結の集計範囲に常に気を配る
- 事後的に対価が確定した場合は、遡及処理して修正するため、過年度分は当初から確定していた時と何ら変わらないことに注意（過年度分の負ののれんは当期発生ではなく、利首になる）
- 二人で間接所有の場合、のれんはそれぞれ計上する（集団で考えたら追加取得はK）、償却額は按分しない
- 間接所有で孫会社分ののれん償却分を持っていき忘れない、年数長い場合は資本勘定の差額としてのれん償却ひけばOK
- 事後的に交付された対価は、交付した事業年度に支配獲得年度～分をまとめて償却す

## 6 日本語を正確に使え！

主語と述語の不一致、接続詞、法律用語の使用方法の誤りなどは印象悪い  
論理的に書くことが大切、論理が飛ばないように意識する

## 7 趣旨を考えろ！

理解する上でもっとも重要なのは趣旨 条文を理解することで、会社法でどのような利益を保護しているのかわかるはず  
趣旨のみを1日で読むというのもやってみる価値はある

## 8 問題文は穴があくほど読め！

見切り発車で知っている論点に飛びつかない  
どうしてもなにをしていいかわからない時は、条文の要件を問題の事実を拾って当てはめだけしてくる、条文から入らないと必ず論ズレする  
白紙はもちろんNG

## 9 答練の受け控えはするな！

講義はあくまでも先人の知恵を学ぶ場、論対集は素振り、答練は練習慈愛  
全然わからなくても途中答案是ダメ、2時間粘る、条文を探して脳に汗を書く感覚を大切に  
全然手応えがなくても周りも対してできていなかったため偏差値としては悪くなかったということは本当にある  
11回も練習試合があるから全て日程表通りに受ける  
過去の答練は不要 手を広げない

## 10 論文企業法はみんな苦手！

得意とする1%に入ろうとする必要はない。相対的に浮上する。  
型を守って、丁寧に条文を検討して、問題の事実を丁寧に拾う  
ホームランではなく、ヒット4本で得点する  
何が何でも偏差値60超える自信がある勢は、とにかく条文に詳しい。「試験委員よ、私が知らない条文出してみろよ、探してやんよ」という状態に8月までになっていると企業法で落ちることはない

## 4. 経営学克服した人のメモ

### 試験中気を付けること

- 机上に定規出すの忘れない！！！！
- まずシール貼る！！！！シール貼れば受かります☆☆☆☆☆☆
- 最後こそ集中、気を抜かずに丁寧に解く

- 難しい問題は潔く飛ばす、必ず解ける問題があるのでそこに時間を割くことが合格への近道
- 下書き端折らない
- 単位の指示なくば整数とかで答える、勝手に単位付ない
- 小数の指示要確認、こっそり入れ替わっている可能性あり
- 計算途中で四捨五入しないことの指示がある場合、標準偏差等、一回問題で端数処理して、その結果の値を次の問題でも使う時、指示なくば四捨五入前の数字で計算する
- カッコの位後ろに語句の一部がついていないか確認する

## コーポレートファイナンス

- 負債ありの会社で、支払い利息の控除忘れない
- 法人税ありの場合、期待営業利益からの控除忘れない
- 標準偏差、期待収益率の計算は電卓ミスとかしやすいのでとにかく丁寧に叩く
- CAPMで証券市場線の傾きを求める時、期待収益率orリスクプレミアムのいずれが与えられているのか注意する
- 配当利回り、投資収益率確認
- 配当がある時のDDMは、配当と内部留保分逆にしない（支払利息みたいにしない）
- 配当割引モデルは、時系列、サステイナブル成長率で分子も割引率も変化することに注意

## インベストメント

- ポートフォリオの投資比率は分数になってもいいので必ず1になるようにして粘り強く計算する
- 相関係数1の時はリスク分散効果が働かないので標準偏差は加重平均になる
- ジェンセン、シャープレシオ、トレイナレシオは実際のリスクプレミアム！！！（計算で出したノリで使わない）
- 当期純利益に配当性向のかけ忘れ注意
- 期間2年のスポットレートと最終利回りを混同しない

- 最終利回りが大きくなるとデュレーションは小さくなる（計算すればわかる）
- デュレーションの理論確認（クーポンあると早く回収できる→DMacは小さくなる）

#### デリバティブ

- オプションの価値が聞かれている時は、時間価値のひっかけに注意
- 満期がいつか確認！！！！金利の月割計算に引っかからない
- 二期後のオプションの場合、二年分の割引計算を忘れない
- アメリカンオプションの場合、いつ行使が有利かは時間価値考慮して判断する